

令和7年度高知県立宿毛工業高等学校

第1回学校運営協議会 議事録

2025.8.27 16:00

宿毛工業高等学校 会議室

【参加者（協議会委員）】

武政 登：大方あかつき館・館長（宿毛工業同窓会長） 大塚 猛：三原村役場 当日欠席
阿部 一仁：四万十市役所 当日欠席 安岡 未佳：特別養護老人ホーム大月壮 当日欠席
谷本 裕子：宿毛市役所・企画課 浜田 勇真：宿毛市立東中学校・教諭
兼松 尚子：四万十市立中村西中学校・教頭 浦尻 学典：宿毛市青年会議所 当日欠席
橋田 ゆき：宿毛工業スクールカウンセラー

【参加者（宿毛工業教職員）】

上原 健（校長） 小橋 竜二（教頭） 岡本 真紀（事務長）
小野 博幸（教務部長） 河原 正委（生徒指導部長） 当日欠席
畠中 晶代（進路指導部長） 中脇 周司（生徒サポート部長） 山崎 桂（総務部長）
吉岡 利泰（総務部・議事録） 町田 泰甫（総務部・議事録）

【開会】（小橋教頭）：開会宣言、議事録用録音の許可を問う、配布資料確認

【校長挨拶】（上原校長）：本日の議事について簡単に説明。本校の今年度の様子を説明。

【自己紹介】（小橋教頭）：前回から役員の変更もあり、初めて顔を合わせる方がいるので自己紹介
武政（同窓会長）・兼松（中村西中教頭）・浜田（東中教諭）・谷本（宿毛市企画課）・橋田（宿毛工業 SC）・
小橋（教頭）・岡本（事務長）・山崎（総務部長）・町田（総務部）・小野（教務部長）・
畠中（進路指導部長）・中脇（生徒サポート部長）の順で自己紹介

【議事】司会進行は武政（会長）

（1）令和7年度 学校経営計画について（説明：上原校長）

《重点項目》

重点目標として、「学力の向上」と「社会性の育成」を掲げている。まず「学力の向上」について、県が実施する学力試験の結果は、成績に応じてA層からD層に分けられているが、本校では基礎学力が一定水準に達している「C層」以上の生徒の割合を増やすことを目標とする。これは、従来課題とされてきた下位層（D層）からの脱却だけでなく、上位層の生徒をさらに伸ばすことも意図している。昨年度は基礎学力の向上で大きな成果を上げ、県教育委員会からも評価を受けた。また、県全体の課題でもある「授業外学習時間の増加」にも取り組み、学習習慣の定着を目指す。

次に「社会性の育成」については、県独自のアンケート結果を基に目標値を設定し、達成に向けて取り組んでいる。本校の生徒は、このアンケートにおいて多くの項目で高い評価を得ており、現状を維持しつつ、さらに向上させていきたいと考えている。これらの目標を達成するための具体的な取り組み内容は資料に記載の通りであるが、特に本校は工業高校であるため、普通高校にはない「ものづくり」や「実習」を活動の中心に据え、社会に貢献できる人材育成を進めていきたい。

《取組項目》

具体的な取り組み項目として、「地域協働学習」と「教科横断的教育」を推進する。

まず「地域協働学習」は、近年全国の高校で推進されている「探究活動」と深く関連する。探究活動は学校内での完結が困難なため、外部の知見や協力を得て地域と連携しながら進めることが重要である。普通高校では「総合的な探究の時間」が各学年に設けられているが、本校ではこれを「課題研究」という専門教科に置き換えている。3年生の時に集中的に履修し、各教科の専門知識や「ものづくり」の実践を通して課題解決に取り組む点が特徴である。したがって、地域協働学習は、特に地域住民や地元企業の協力を得ながら進めていく計画である。

次に「教科横断的教育」についても目標を掲げている。これもまた探究活動を推進する上で不可欠な要素である。ただし、ここで定義する「教科横断的」とは、単に複数の教科を形式的に組み合わせることを意味するものではない。

本来、一つの課題を解決するためには、様々な視点からのアプローチが必要となる。例えば「人口減少」というテーマを探究する場合、社会背景や歴史から考察する「社会科」の知識や、データをグラフで分析する「数学」の能力など、多様な教科の力が自然と求められる。このように、課題に応じて必要な知識や技能を多角的に活用する能力こそが、真の「教科横断的な学び」であると考えている。

これは文部科学省が目指す学びの姿でもあり、教員には、特定の教科を組み合わせるだけでなく、生徒が自らの課題に応じて多様な知識を結びつけ、統合できるような授業展開を期待するものである。

《チーム学校》

本校の経営計画における主要な取り組みは、「学校の振興」「不祥事防止」「働き方改革」の3点である。「学校の振興」は、喫緊の課題である生徒数の確保に向けた取り組みである。幡多地区では、今後5年で中学3年生の数が3分の1近く減少し、10年後にはそれ以上の減少が見込まれるなど、極めて深刻な状況にある。これは学校の存続に関わる問題であり、入学者数をいかに確保するかが大きな議題となる。その対策として、工業高校ならではの魅力を明確に伝え、工業教育を核として社会に貢献できる人材の育成に注力する。また、県全体の高校定員削減の影響も本校は免れないため、学校の魅力化は不可欠である。

「不祥事防止への取り組み」も重要課題である。現在、チェックシートの活用などを通じて再発防止に努めているが、今後も継続して徹底した取り組みを行う。この件に関しては、外部からの有益な知見も参考にしたいと考えている。

「働き方改革」を推進する。これは全国的な要請でもあるが、本校は地理的条件から、特に部活動の大会遠征などで教員の長時間勤務が発生しやすいという課題を抱えている。困難な点はあるものの、ICTの活用など様々な手法を取り入れ、可能な限り改革を進めていく所存である。

(2) 学校の特色化・魅力化について（説明：上原校長）

学校の特色化・魅力化は、生徒数増加を目指す上で県の再編振興計画にも位置づけられる重要課題である。県教育委員会では入試形態の変更も視野に入れており、本校としてもこれに合わせた対応を検討していく。

生徒数減少は避けられない現実であり、その対策の一つとして「地域みらい留学」による県外からの生徒募集が考えられる。これは、都会の生徒が地方の高校で学ぶ制度で、定員が充足していない場合に限り受け入れが可能となる。幡多地区を含む多くの中山間地域の学校で導入が進んでおり、他校では、生徒数増加に成功している事例もある。この制度は PR 効果が高い一方で多額の費用を要するが、本校も県外からの生徒受け入れを県教委に要望している。学校の存続が危ぶまれる状況下では、工業系人材の育成と地元定着の可能性も視野に入れ、県外からの受け入れも選択肢とせざるを得ない考える。

一方で、本校独自の魅力の核は「工業教育」である。この特色を中学生や保護者はもちろん、工業教育に馴染みの薄い中学校の教員にも深く理解してもらうことが不可欠である。そのための効果的な PR 方法を現在模索しているところである。

(3) 不祥事防止について（説明：上原校長）

現在、チェックシートの活用などを通じて再発防止に努めているが、依然として課題は多い状況である。不祥事を根絶するため、今後も徹底した取り組みを継続していく。この件に関しては、各委員の事業所における優れた取り組み事例なども参考に、外部からの知見も積極的に求めていく所存である。

(4) その他 特になし

●質疑応答（司会：武政会長）

《議事(1) 学校経営計画についての質疑応答》

【委員】学力向上目標として「D 層」の記載が見受けられない「D 層」についての目標はあるのか？

【学校】現在、県教育委員会の指定では「C 層以上の生徒の増加」という項目になっているので、計画にはそのように記載しています。ただ、学校内部での実質的な目標としては、特に学習に困難を抱える「D 層」の生徒をなくしていくことが一番の取り組みだと考えています。

【委員】入試についてですが、学力検査だけでなく、会社のように面接などを重視して、生徒の質を担保していくことも必要ではないでしょうか？もちろん多くの生徒に入学してほしいですが、学校全体の質を考えると、様々な角度から判断することが大切だと思います。

【学校】入試に関する詳細は申し上げられませんが、学力検査だけでなく、面接と調査書の内容を総合的に判断して選抜を行っています。

【委員】この計画は令和 7 年度の単年度のものだと思いますが、より中長期的な計画があって、その中で単年度の計画を策定されているのでしょうか？

【学校】はい、その通りです。計画書の 1 枚目に記載した「スクール・ミッション」が学校の中長期的な

指針となります。ただ、こちらには具体的な数値目標はなく、各年度の目標は前年度の実績などを踏まえて設定しています。

【委員】令和 6 年度の実績と比較して、目標値はどのように設定されたのでしょうか？また、学力向上の項目で、1 年生より 2 年生の方が「C 層以上」の割合が高い一方、「授業外の学習をしない」生徒の割合も 2 年生の方が多いという逆転現象が見られます。これは、学校の授業でうまくカバーできているということでしょうか？

【学校】まず、学力に関する数値ですが、これはどちらの学年も「入学時」の成績データです。学年ごとに学力層のばらつきがあり、昨年度の入学生（現 2 年生）の方が入学時の成績が良かった、ということです。したがって、今年の 1 年生の学力をいかに伸ばしていくかが課題となります。

【委員】中学校でも家庭での学習時間の確保は大きな課題です。以前は教員が宿題を与える形でしたが、今年からは生徒が自分で計画を立てて学習を進める方針に変えました。やらされる学習ではなく、主体的に取り組むことで、高校進学後も学び続ける姿勢が身につくのではないかと試行錯誤しているところ です。

【学校】「授業外で勉強しない」という点ですが、これには様々な要因が考えられます。本校は生徒の約 8 割が部活動に加入しており、放課後は練習に打ち込んでいます。また、資格試験の時期には、遅くまで学校に残って専門科目の実習や勉強に励む生徒も多いです。決して勉強していないわけではなく、時期や目的によって時間の使い方が異なると考えています。

【委員】部活動や、居住地からの通学時間なども大きく作用している感じでしょうか？例えば私が住んでいた土佐清水市からだと、部活後に車で帰るとかなり遅い時間になっていました。

【学校】はい、通学時間が長いことも、家庭での学習時間に影響する一つの要因だと考えられます。

《議事(2) 学校の特色化・魅力化についての意見交換》

【委員】中学校現場の先生方にお伺いしたいのですが、生徒たちはどのような理由で本校を進路として選んでくれるのでしょうか？

【委員】やはり専門の「科」に興味を持っている生徒が多いです。「情報系の勉強がしたい」「国家公務員を目指したい」など、将来の目標が明確な生徒が志望する傾向にあります。漠然とした理由で入学する生徒は少ない印象です。

【委員】中村西中でも同様に、生徒たちは各科の専門性に魅力を感じています。特に土木から公務員を目指したいという生徒は多いです。また、部活動も大きな動機になっています。種目が豊富で、中学校時代の先輩がいるから一緒に活動しながら資格も取りたい、という生徒もいます。

【学校】各科の学習内容が、中学生に伝わりにくいということはないでしょうか。「何をしているかよく分からない」といった科はありますか？

【委員】その点については、昨年度 YouTube で公開された課題研究の発表会動画が非常に効果的でした。QR コードを教室に掲示し、生徒や保護者に見てもらったところ、「具体的な活動内容がよく分かった」と大変好評でした。ああいった情報発信はぜひ続けていただきたいです。

【委員】女子生徒の状況についてお伺いします。情報技術科や建設科にも女子生徒がいると思いますが、普段の実習などの様子はいかがでしょう？また、公務員試験を目指す女子生徒も多いのでしょうか？

【学校】はい、女子生徒も非常に意欲的に活動しています。オープンスクールでも生徒の代表として中学生を案内してくれるなど、積極的に頑張っています。公務員試験を目指す女子生徒も多いです。

【委員】空手道部が全国レベルで強い理由は何でしょうか？

【学校】現在活躍している生徒の多くは、幼い頃から地元の空手道場に通っていた経験者です。

【委員】卒業生であるOB・OGの方々が、在校生と交流する機会がありますか？社会で活躍する先輩の話は、生徒にとって良い刺激になると思うのですが。

【学校】はい、各科の取り組みとして、卒業生を招いて在校生に話をしてもらう機会を設けています。

【学校】オープンスクールでは情報技術科の卒業生（高知工科大学在学中）が来てくれましたし、企業の方も会社説明の際に卒業生を連れてきてくださることがあります。学校全体というよりは、各科の授業の一環として実施している形です。

【委員】中学生は、友達関係や部活動といった狭いコミュニティの中だけで進学先を選びがちである。宿毛工業高校の各科で学ぶ専門的な知識が、将来どのような仕事につながり、中学校での勉強（理科など）とどう関連しているのかという「魅力」を、もっと広い視野で発信してはどうか？具体的には、Instagramなどを活用した情報発信や、中学校の授業と連携した出前授業などを通じて、生徒の学習意欲や興味を引き出す工夫ができないか？

【学校】すでに出前授業などの取り組みは行っているが、特に地理的に近い中学校とは、技術の授業と連携するなど、より一層協力関係を深めていきたいと考えている。今後、中学校側と具体的な連携について相談していきたい。

《議事(3) 不祥事防止についての意見交換》

【委員】宿毛市内の中学校では、教員の不祥事防止に向けて、風通しの良い職場づくりをテーマに研修を行っている。

【委員】東中学校では、学年部ごとに担当を決め、体罰や個人情報の取り扱いなど、具体的なテーマについて教員が講師となって研修する持ち回り方式をとっている。また、研修の報告書を定期的に提出し、その内容を校内研修で確認する取り組みも始めた。やはり、一人で抱え込まないことが重要だと考えている。

《連絡》次回の学校運営協議会は1月か2月頃に開催予定。

【閉会】（小橋教頭）：閉会を宣言

閉会時刻 17時50分頃（約1時間50分の会）